「石地」施肥試験

― 樹勢の維持・強化を狙って ―

【試験のねらい】

広島県安芸郡倉橋町で発見された「石地」は，①浮皮の発生が極めて少ない，②食味が非常に良いなど優れた特性を持っている。しかし，結実し始めると樹勢の低下がみられ，隔年結果しやすい問題がある。これまで，樹勢維持に夏肥重点の施肥体系が有効であることが観察されている。そこで，この圃場では，「石地」地」の樹勢低下を防ぎ，連年安定生産のための最適な施肥量，施肥時期を検討している。

【試験方法】

処理区：施 肥 量：基準施肥量区 （1.0N区）（25.0kg窒素／10a）
基準3割増肥区（1.3N区）（32.5kg窒素／10a）
基準3割減肥区（0.7N区）（17.5kg窒素／10a）

施肥時期：秋肥重点区（春:夏:秋;3:2:5）
夏肥重点区（春:夏:秋;2:5:3）

使用肥料：成分（%）;N:P:K=10:8:8　有機率42%

施肥量と施肥時期を組み合わせた計6処理区で比較検討を行う。
施肥試験は，平成13年秋肥から開始した。
同試験を倉橋町の農家圃場でも実施している。

【試験結果】

- 平成13，14年産の果実品質は処理区による大きな差はなかった。
- 2年間の収量は，夏肥重点区が秋肥重点区に比べて安定していた。
- 7～8月の葉中全窒素濃度は，施肥量が多い区で高く，夏肥重点区が秋肥重点区に比べて高い傾向が見られた。

*処理区は樹毎のラベルをご覧ください。

【今後の取り組み】

同処理を継続して行い，樹勢や果実品質，隔年結果への影響を調査する。「石地」の最適な施肥方法を確立する。

© 2003 広島県立農業技術センター 果樹研究所